

国際競争力強化に向けたDX推進と人材・組織の 再活性化

—経済広報センターがオンラインセミナーを開催—

2021年3月16日

講師：花田 光世 慶應義塾大学 名誉教授

久富 雅史 小田急電鉄株式会社 執行役員経営戦略部長

阪川 尚 同社 イノベーションラボ「IFLATs」チーフプロデューサー

経済広報センターは3月16日、花田光世慶應義塾大学名誉教授らを招き、「国際競争力強化に向けたDX推進と人材・組織の再活性化」と題するオンラインセミナーを開催した。会員企業の幹部ら約100名が参加し、花田氏から、企業がDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進するためにも重要な「キャリア自律」について説明を聞いた。その後、久富雅史小田急電鉄執行役員経営戦略部長が新しい働き方をリードする経営戦略について説明し、同部の阪川尚課長が取り組み事例を紹介した。さらに、キャリア理論を研究する中井弘晃明海大学講師からコメントがあり、DX時代における人材と組織の再活性化について懇談した。

講演で花田氏は、日本企業がSociety 5.0の実現に向けてDXを通じた高付加価値化を図るためには、企業を構成する社員個人が、“多様性と自律、を軸に自らの資産価値の向上に取り組むことが重要と指摘。社員が、自らのライフキャリア、生き方を追求していくためには、キャリアの充実と納得が重要であり、企業にはそうした充実と納得を実感できる環境と仕事を提供する責任があると述べた。また、GAF AなどのDX先導企業や国内の一部企業で、OKR（Objectives and Key Results）やPerformance Developmentなどの新たな能力開発が進んでいることを紹介。短期では達成できない突出した目標を設定し、目標達成に向けた努力や能力拡大とその発揮をきめ細かく支援するような人材の育成と活用が、企業のイノベーション創出には欠かせないとの見解を示した。

久富氏は、部員の大半に新規事業開発を担当させることで事業領域の拡張と人材育成の両立に取り組んでいる仕組みを説明し、阪川氏が取り組み事例として自律した社員を育てるための「IFLATsプロジェクト」を紹介した。中井氏は、シニア社員の活性化策として、自身の経験を踏まえ、ドラッカーが提唱した「パラレルキャリア」を推進する必要性を訴えた。

以上

一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階

電話 : 03-6741-0031
<https://www.kkc.or.jp/>
<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。